

ぼくにとっての理想の住まい

埼玉県川越市立川越西中学校

二年 小嶋大貴

日本は、地震、火災、水害、竜巻など、災害がとても多い国です。いつ来るのかわからないこれらの災害に備え毎日安心して暮らせる家が、ぼくにとっては理想の住まいです。

我が家は築十六年の鉄筋二階建てです。建ったのはぼくが生まれる前なので、父母にその時のことを聞いてみました。家を建てる時父母は住宅展示場に何度も行き、災害に強く、長く安心して暮らせる家という自分たちの条件に合ったものを選びました。水害に備え土を盛って土地を高くする、地震に備え地盤調査をして基礎を補強し鉄筋構造にする、台風や竜巻に備え大きな窓にはシャッターを付けるなど、打ち合わせも沢山したそうです。そして現在も定期的に点検やメンテナンスをしています。

暮らしの中での工夫としては、食糧や飲み物を貯蔵し普段から順次使いながら補充する、水道が出なくなつた時の為、お風呂の水はためておく、液体歯みがき、体をふく為の赤ちゃん用のおしりふき、使い捨てトイレなども準備しています。また、背の高い家具や高い所に重たい物をなるべく置かず、つっぱり棒やすべり止めを活用している、ベッドの手すりに、サンダルと懐中電灯、ホイッスルがさげてあります。これらは災害にあつた人の話を参考に、実践しているそうです。

これからしたいことは、自家発電やソーラーパネルです。電気が止まっても自力で最低限の電力を確保できればと考えているそうです。

家族みんなが安心して暮らせるように、こんなにも父母が工夫してくれているとは思いませんでした。理想の住まいとは、家族みんなでそれぞれの家庭の理想に合うよう作り上げて行くものだと改めて実感しました。ぼくも家族の一員として、できるだけ協力したいと思います。そして、このような環境で生活できるのだから、中学生として勉強も部活も遊びも、頑張つて行きます。